

◎ファイル・カンパニー、「永田町」が竣工
― 駐車場・シェア住居・事務所の複合建物

駐車場の上部空間を活用した空中店舗などを企画・開発するファイル・カンパニーは、東京・千代田区でオフィスとシェアハウスの複合施設「ファイル・パーク永田町」の運営をこのほど開始した。事業主は白砂商事(東京・新宿区、白砂恭子社長)。

同物件(千代田区平河町2―10―4)は、東京メトロ永田町駅徒歩5分、半蔵門駅徒歩6分の立地で、1階が駐車場(6台)とバイク駐輪場(10台)、2階がオフィス(94・56㎡)、3階が女性専用シェアハウス(7室、95・97㎡)。シェアハウスの管理運営はRバンクが手掛ける。竣工したファイル・パークとして30カ所目となる。ファイル・カンパニーとRバンクの協働事業は3カ所目だが、ファイル・カンパニーがオフィスとシェアハウスの複合型を手掛けるのは初めて。白砂商事が11年7月に約50坪の用地を取得。駐車場として利用していた。

シェアハウスは寄宿舎の基準を順守。居室面積は55・5畳で、賃料は6万8500〜7万5000円。共益費は一律1万5000円。近隣オフィスに勤務する20歳後半から40歳代の女性がターゲット。Rバンクの既存顧客にアプローチし、1月11〜13日に内覧を開始。14日時点で10名が内覧し、1名が契約した。シェアハウスや1人居住の賃貸住宅が少ないエリアで、高い需要を見込む。オフィス部分にはファイル・カンパニーが転居して入居し、同物件をモデルとして活用していく方針。

ファイル・カンパニーは、15年までに全国主要都市で100カ所のファイル・パーク展開を目指しており、足元では35カ所まで計画が進捗している。